

思いやりの心を育むキャンパス

入澤 崇

(龍谷大学学長)

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

シビ王物語



ガンダーラ出土
大英博物館所蔵

物語の意味するところ

- 鳩の苦しみ・悲しみ、鷹の苦しみ・悲しみ
- シビ王のとった行動とは
- 自分の身体を切り刻んでも他者を助ける
- 私たちには真似することのできない行為
- しかし、シビ王から大切なことを学ぶことはできます。
- 「いのちあるもの」に対するまなざし
- 他者を排除しないあり方

社会をみつめる

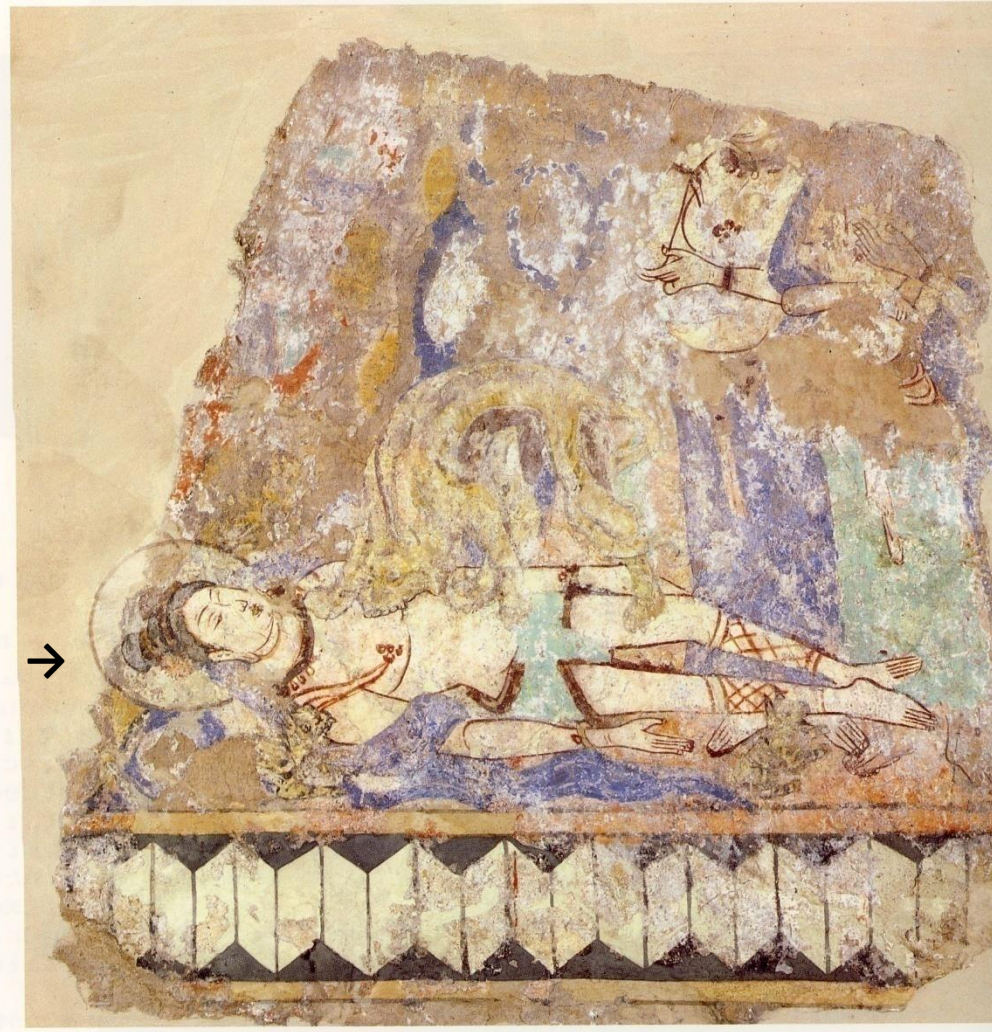
- 排他的傾向の強まる現代社会
- 他者をないがしろにする、他者を攻撃する風潮
- 今求められるのは他者を受け入れる広い心

菩薩という人格

- 菩薩：もとは釈尊が悟りを開く前段階を指す言葉
- 理想的菩薩：観音菩薩、弥勒菩薩、文殊菩薩等
- 菩薩は、他者を悟りの世界に導く存在
- 他者と共に生き、他者のために生きる
- 利他の実践：これと真逆にあるのが「排他」

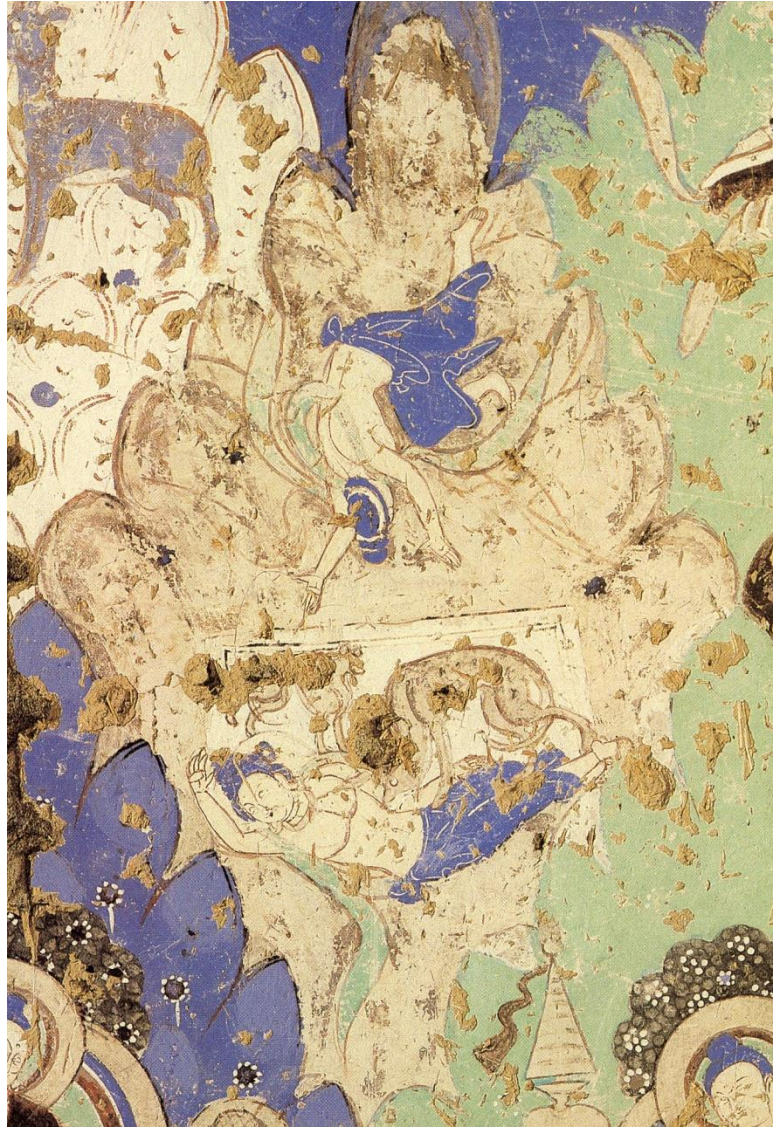
摩訶薩埵太子本生 (マハーサットヴァ本生図)

飢えた虎に自らの肉体
を与える，前世の釈尊



シクシン石窟出土，エルミタージュ美術館所蔵

摩訶薩埵太子本生(捨身飼虎)



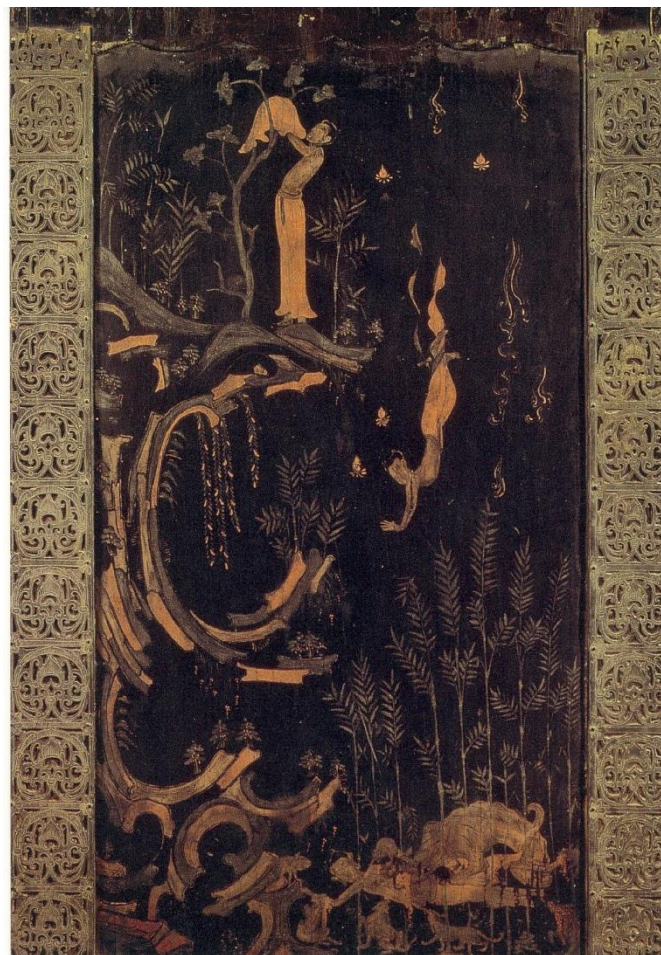
キジル石窟第38窟

捨身飼虎(玉虫厨子)

玉虫厨子



捨身飼虎



他者を利する(利他)という発想

和を以て貴しとなす

自己と他者

- 自己を犠牲にしてまでも相手を救うということは私たちにはできません。
- しかし、こうしたブッダ（釈迦）の前世の物語から、相手へのいたわり、相手への思いやりを学ぶことはできます。
- 「自己と他者」を「共にいのちある者」ととらえる視点がいま求められています。
- 「仏教」を学ぶということは、いままで見えていなかった世界が見えてくるということです。

異民族ひしめくシルクロードでなぜ仏教が必要
とされたのでしょうか？

一切衆生の安寧を願う菩薩のこころ



異民族と共存する道

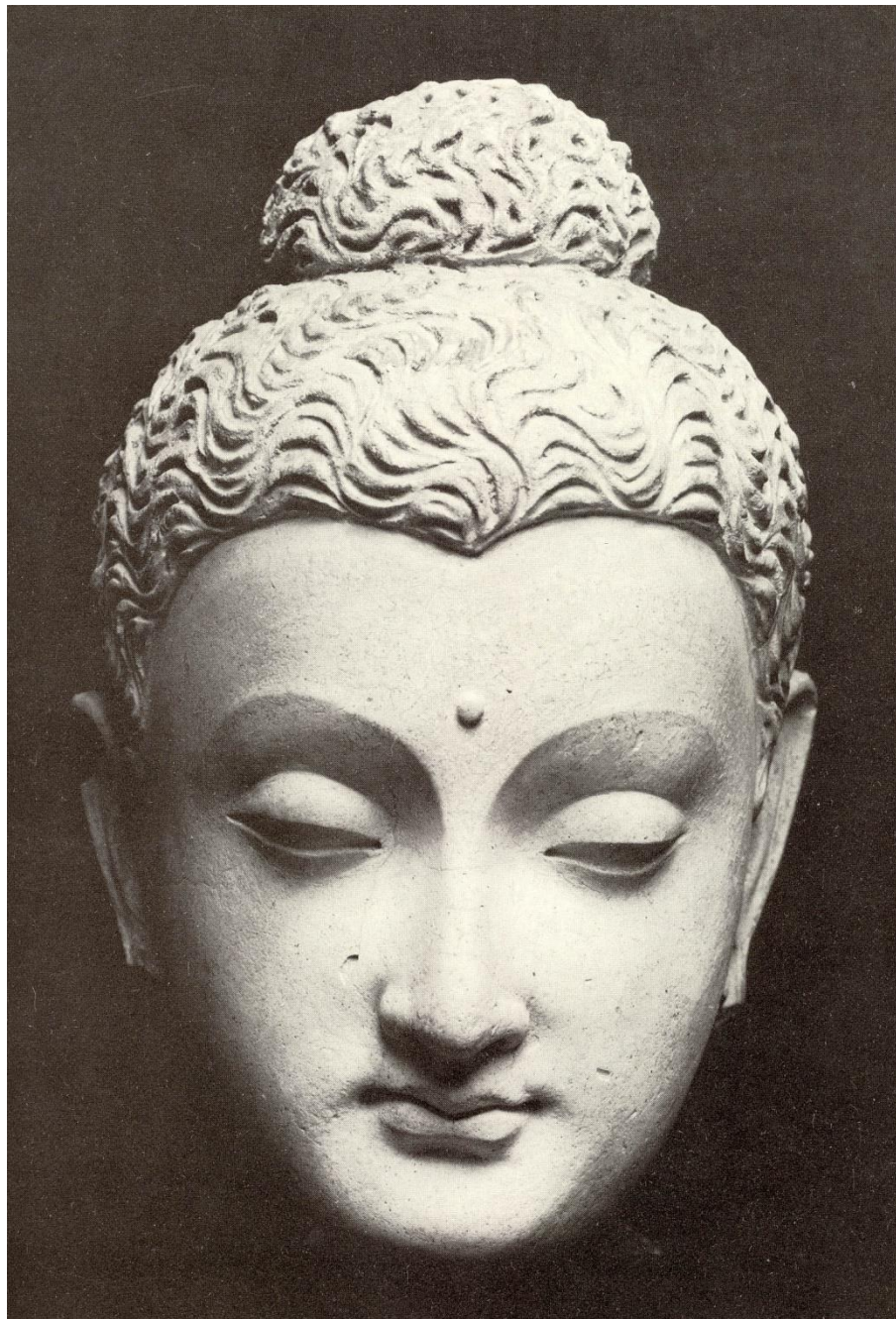


自己をみつめる

- どこまでいっても自己中心的な自分のありよう
- そんな自分を省みる
- 常にわが身を省みる
- 常識を超えた世界から自分を照らす
→阿弥陀仏の誓願を通して自分を省みる
龍谷大学建学の精神

アフガニスタンへようこそ





アフガニスタン
ハッダ出土

ブツダのことは

怨みに報いるに、怨みを以ってした
ならば、ついに怨みのやむことは
ない。

怨みを捨ててこそやむ。

これは永遠の真理である。

＊ 報復の連鎖が続く現代社会

バーミヤーン石窟(アフガニスタン)



バーミヤーンの少年

- 2004年5月、アフガニスタンのバーミヤーンでの出来事
- 広場で少年がボール遊びをしている。少年はボールを蹴るたびにひっくりかえる。
- 少年は片脚。地雷で左脚を失ったという。毎日サッカーの練習をしているとのこと。

絶望を乗り越えて

- 前方に石を置いて、それに向けてボールを蹴る。ボールを蹴っては転び、転んではまた立ち上がる。
- 腕はアザだらけ。Tシャツは土で汚れ、擦り切れている。
- 少年はサッカー選手になるのが夢。
- 片方の脚を失った少年の悲しみ、苦しみは計り知れない。

明日に向かって

- 夕日を浴びながら、黙々とボールを蹴る少年の意識には何が流れているのだろうか？
- 地雷を埋めた民族に対する怨念だろうか？
- 貧しさゆえに義足をつけられない絶望だろうか？
- 少年の眼は輝いている。
- 少年は明日に向かってボールをキックしている。

前向きに生きる

- 少年は父親の跡を継いでジャガイモ畑を経営し、稼いだお金で義足を買う計画を立てている。
- 少年の知人は言った。「彼は夢をあきらめていない」

逆境の中でも
前向きに生きている人たちがいる



気づきと目覚め

- 多くの恩恵を被っている自分
親の支え、先生の支え、友達の支え、等々
- 教えに照らされて見えてくる世界
いままで気づかなかったことが学べる幸せ
- 宗教的情操を培うことの重要性
人間の愚かさと人間の素晴らしさ

慈悲

- 生活で必要なのは他者へのあたたかな共感
- 目指すべきは「利他的人間」
- あらゆる仕事は「他者の幸福のため」

障がい者支援の重要な視点

- 障がいの有無を超えて、すべての人びとが共生する社会の構築へ
- 真の障がいとは何か？ 障がい者の方々が直面している社会の「障壁」こそが本当の「障がい」
- 恐ろしいのは「無関心」
- 「共生」から「響生」へ →心と心が通い合う社会へ

良寛の言葉

- 「いかなるが 苦しきものと 問うならば 人をへだてる ところとこたえよ」
- (訳)「どのようなことが苦しいのかと問われたならば、人をわけ隔てる心と答えなさい」
- 人をわけ隔てる心＝人を差別する心、人を見下す心

苦しさから楽しさへと転換する方策

- 心の隔たりを取り払う行為→支えあう
- 心と心を通わす習慣→他者の心に共感する
- 「ノートテーカーは楽しい」(経済学部学生の発言)
- 「随喜の精神」の浸透→宗教行事への参加
随喜: 他者の慶事を心の底から喜ぶこと

自然法爾

- 仏教語としての「自然」:おのずからそのようになる
- 「法爾」:法(真理)がそのままに顕現する
- 親鸞聖人の言う「自然法爾(じねんほうに)」:阿弥陀仏のはたらきによる救いを示す言葉
- いつでも、どこでも、誰の上にも及ぶはたらき
- 「あるがままでいいのだよ」との呼び声

相手に心を開くことで
世界は広がる

「弱さ」から考える

- 自分の中にある「弱さ」を自覚する
- 弱い立場にある人に感応する
- 「弱さ」は克服すべきものではない
- 耳をすますべきもの
- 実は「弱さ」にも力はある
- 強権政治がもつ力とは異質な力が
- 「弱さ」を認めるところから始めてみよう

多様な学生が集うキャンパス
思いやりの心を育むキャンパスへ

終



RYUKOKU
UNIVERSITY